

●編集・解題／一橋大学経済研究所附属 日本経済統計情報センター

明治の日本経済の全国的実態を把握する比類なき貴重な統計集成

幅員 玄米 戸数 大麦 人口 味噌 牛馬

人夫 薪炭 学校 漬物 車輛 職工 白米

船舶 獣医 醤油 寺院 小麦 病院 神社

明治徴発物件表集成

全30巻

別冊1



クレス出版

●刊行の言葉

歴史研究の深化は、これ迄注目されなかった資料の意義を発見することがある。新しく着目された資料というのは、多くの場合、孤立してあるということは少なく、類似の資料群があることが多い。一つに注目されると連鎖的に関連資料が探し出されるという結果を生み出しがちである。

日本経済をマクロ的に把握しようという試みは、全国的な等質の資料を必要とするようになる。明治期というのは、統計調査が次第に根づいて来た時期であり、全国的規模の調査であっても、地域によっては脱漏があったり、調査もれがあったり、時系列的に同じ精度のデータが得られるわけではない。困ったことに、そのような精度を検証する詳細なミクロ・データは、かならずしも多くはない。

今回復刻刊行する『共武政表』『徵発物件表』は、全国同一方式で町村別統計が得られるという点で、極めてユニークなものである。これ迄初期の時点については、柳原書店並びに青史社で復刻版を刊行し、またマイクロ・フィルム版としては雄松堂書店から刊行されているが、今回のように全冊を復刻版で刊行することは、利用する上で極めて便利であると思われる。ただ、『徵発物件調査』はここで刊行する陸軍省の系列以外に、明治一九年以降海軍省の系列があり、これについては、その刊行の形態が区々であり、かならずしもその全容が明らかにならなかったわけではないので、この復刻のなかには含まれていない。

この一連の陸軍省の調査は基本的には、軍事的徵発可能性という視点から調査項目を定めている。その徵発という視点からは(一)戸籍統計、警察統計と並んで独自の人口統計の系列を提供するだけでなく(二)特定職種に限定されるけれども職業別人口統計をも提供することになる。この人口統計と並んで、重要な統計としては、(一)物価統計(二)水車や事業所などの建物統計といった、他の統計調査では包括的なデータが得られないものを含んでいる。これまでは、歴史地理学者や、一部の経済史家が、利用するに留まっていたが、より広範な分野の人々が利用可能な資料群であると考えられる。本復刻版の刊行がそのような利用に道を開くことになれば幸いである。

一橋大学経済研究所附属
日本経済統計情報センター

センター長

溝口 敏行

センター主任

南 亮進

センター教授

松田 芳郎

●推薦の言葉

明治地方統計の宝庫

お茶の水女子大学教授

中村 隆英

明治時代の地方統計として、古くから利用されてきたのは「帝国統計年鑑」「農商務統計表」などの中央統計と、「府県統計書」「勸業年報」などの府県作成の統計であった。ただし、それらの含む情報の範囲は限られているうえに、精度にも問題がある。ところがこの欠を補うに足りる貴重な資料が学界に紹介されたのは十数年前のことであった。陸軍省によって編纂された「共武政表」(明治八年以降)と「徵発物件一覧表」(明治一六年以降)とがそれである。

「イザ鎌倉」の場合、各師団の管内で徵発しうる米麦をはじめとする食糧、薪炭などの物資の生産量、人員、馬、馬車、船舶、家屋倉庫、病院などの存在量、さらには物価に至るまでを調べあげたこの統計の特色は、何よりも、村落のレベルにまで下つての豊富な情報量と、現地調査にもとづく信頼度である。

ところが、この資料は文字通りの稀覯の書であって、従来知られていなかったのもひとつにはそのためであった。いま、このデータが復刻出版されて、広く学界の共有財産として活用される機会を得たことは、まさに宝庫が開かれたようなものである。幕末のおもかげを残す明治前期からの地方の実情をいきいきと伝えるこのデータを駆使して、地方史はもちろん、経済史、社会史、生活史などの分野でも、すぐれた成果が生みだされる日を待望するものである。

価値ある研究資料統計集成

大阪学院大学教授

今津 健治

『共武政表』『徵発物件一覧表』等の陸軍省の手になる一連の明治期の統計書は、以前は一部の研究者に知られているのみであったがこの数年、その特異な資料的価値が認められ波紋は急速に拡がりつつある。此度その全容が復刻されることは利用者には大いに利便を供するものとなるであろう。

内陸の鉄道網が極めて不充分であった明治期の軍隊の移動には牛馬、荷馬車、荷車、人力車、和船等の輸送手段が重要な意味を持っていた。また職人に関する広範な調査や水車場の詳細な統計は、商品(軍需品)、ことに米等の流通の未発達と不可分の関係にあることに注目する必要がある。その他にも医療(衛生)、教育施設、あるいは通信制度等についても当時の実態を知り得る興味深い資料を見出すこともできる。さらに当時、陸軍参謀本部陸地測量部の地形図作成の事業とも深い関連性をもっていたもののように思われる。その情報量の多面的な性格は今後の研究によって開拓される可能性を秘めていると言えよう。

このように前期的な要素を多分に残しながらも、近代的な軍の組織が全国的な統一の視野で、「統計」として捉えようとしていたところに、この統計書の大きな意義がある。

今後発展が期待されている輸送史、流通史、エネルギー史、あるいは生活史や社会史の研究資料として価値は高いものと思われる。地方史の研究においても新しい分野を開くものではあるまいか。

明治徵発物件表集成 収録書一覽

陸軍軍政年報 明治八年

陸軍省

(内閣文庫所蔵)

共武政表 自一至九 明治八年

陸軍參謀局

(国立国会図書館所蔵)

第二回共武政表 (明治十一年) 全

陸軍參謀本部編纂課

(内閣文庫所蔵)

共武政表 明治十二年 上下

陸軍參謀本部編纂課

(内閣文庫、法務省法務図書館所蔵)

共武政表 明治十三年 上下

陸軍參謀本部編纂課

(法務省法務図書館所蔵)

徵発物件一覽表 明治十六年 上下

陸軍省総務局報告課

(内閣文庫、総理府統計局所蔵)

徵発物件一覽表 明治十七年

陸軍省総務局報告課

(総理府統計局所蔵)

徵発物件一覽表 明治十八年

陸軍省総務局報告課

(総理府統計局所蔵)

徵発物件一覽表 明治十九年

陸軍省総務局第一課

(内閣文庫所蔵)

徵発物件一覽表 明治二十年

陸軍省総務局第一課

(内閣文庫、法務省法務図書館所蔵)

徵発物件一覽表 明治二十一年

陸軍省総務局第一課

(内閣文庫、法務省法務図書館所蔵)

徵発物件一覽表 明治二十二年

陸軍省総務局第一課

(内閣文庫所蔵)

徵発物件一覽表 明治二十三年

陸軍省軍務局第一軍事課

(内閣文庫所蔵)

徵発物件一覽表 明治二十四年 上中下

陸軍省軍務局第一軍事課

(内閣文庫、法務省法務図書館所蔵)

徵発物件一覽表 明治二十六年

陸軍省軍務局第一軍事課

(内閣文庫所蔵)

徵発物件一覽表 明治三十年

陸軍省軍務局第一軍事課

(内閣文庫所蔵)

徵発物件表 明治三十四年

陸軍省

(総理府統計局所蔵)

徵発物件表 明治三十六年

陸軍省総務局

(法務省法務図書館所蔵)

徵発物件表 明治三十八年

陸軍大臣官房

(法務省法務図書館、総理府統計局所蔵)

徵発物件表 明治四十年

陸軍大臣官房

(法務省法務図書館、総理府統計局所蔵)

陸軍徵発物件表要覽 明治三十四年

陸軍省総務局機密課

(法務省法務図書館所蔵)

陸軍徵発物件表要覽 明治三十六年

陸軍省総務局

(法務省法務図書館所蔵)

陸軍徵発物件表要覽 明治三十八年

陸軍大臣官房

(法務省法務図書館所蔵)

陸軍徵発物件表要覽 明治四十年

陸軍大臣官房

(法務省法務図書館所蔵)

陸軍徵発物件表要覽 明治四十二年

陸軍大臣官房

(法務省法務図書館所蔵)

陸軍徵発物件表要覽 明治四十四年

陸軍大臣官房

(法務省法務図書館所蔵)

陸軍徵発物件表抄録 大正元年

陸軍大臣官房

(法務省法務図書館所蔵)

明治徴発物件表集成 全30巻構成

■ A5判・B5判・A4判 / 上製函入 / 総約一八、二〇〇頁 / 揃定価四六三、五〇〇円(税込)

第1巻	陸軍軍政年報	明治8年
第2巻	共武政表	明治8年
第3巻	共武政表	明治11年(1)
第4巻	共武政表	明治11年(2)
第5巻	共武政表	明治12年(1)
第6巻	共武政表	明治12年(2)
第7巻	共武政表	明治13年(1)
第8巻	共武政表	明治13年(2)

第18巻	徴発物件一覽表	明治24年(1)
第19巻	徴発物件一覽表	明治24年(2)
第20巻	徴発物件一覽表	明治24年(3)
第21巻	徴発物件一覽表	明治24年(4)
第22巻	徴発物件一覽表	明治24年(5)
第23巻	徴発物件一覽表	明治24年(6)
第24巻	徴発物件一覽表	明治26年
第25巻	徴発物件一覽表	明治30年

第9巻	徴発物件一覽表	明治16年
第10巻	徴発物件一覽表	明治17年
第11巻	徴発物件一覽表	明治18年
第12巻	徴発物件一覽表	明治19年
第13巻	徴発物件一覽表	明治20年
第14巻	徴発物件一覽表	明治21年
第15巻	徴発物件一覽表	明治22年
第16巻	徴発物件一覽表	明治23年(1)
第17巻	徴発物件一覽表	明治23年(2)

第26巻	徴発物件表	明治34年
第27巻	徴発物件表	明治36年
第28巻	徴発物件表	明治38年
第29巻	徴発物件表	明治40年
第30巻	徴発物件表要覽 徴発物件表抄録	明治34年～44年 大正元年

●別冊 全巻総目録、解説

※AはA4判、BはB5判、その他はA5判
※別冊は最終配本に附すが、そのみても定価
二、〇六〇円(税込)で頒布

明治徴発物件表集成 配本一覽

※定価は全て税込

- 第一回配本 平成元年9月末日 全9冊(第9巻～第17巻) 揃定価一三一、八四〇円
- 第二回配本 平成2年1月末日 全8冊(第18巻～第25巻) 揃定価一五八、六二〇円
- 第三回配本 平成2年3月10日 全5冊(第26巻～第30巻) 揃定価 八二、四〇〇円
- 第四回配本 平成2年6月25日 全8冊(第1巻～第8巻) 揃定価 九〇、六四〇円

●書店名

